

## 制作概要

ポスターによるコミュニケーションは同じ印刷媒体の中でも新聞や雑誌などと比べると広告量や伝播範囲に大きな差がある。そのため、訴求内容の到達率もそれだけ低いと言わざるを得ない。増して今やテレビ、ビデオ、インターネットなど映像、電波媒体の発達著しく、印刷媒体には無いオーディオ、ムーブメント、スピードが加わることでヴィジュアル・コミュニケーションの世界を大きく変えてしまった。

日本の全広告量の数%に過ぎないポスターであるが、現在でも日本のデザイナーが制作上、最も好むと思われる人気の高さを誇っていることも事実である。約2,000名の会員からなる JAGDA (Japan Graphic Designers Association/日本グラフィックデザイナー協会) の年鑑に応募されるポスターの点数が 1,000点近くあることや国際的なポスターコンペに応募、入選、入賞する日本人デザイナーの多さをみてもよくわかる。過去に本格的な写真印刷やパーソナルコンピュータの出現のたびに手描きの造形的な面白さを脅かされたデザイナーだが、創作意欲を削がれることなく今日に至っている。時代が変わり、デザインの技術革新が進み、媒体としての機能が低下しても、今なお日本のグラフィックデザイナーがポスター制作に寄せる関心の高さ、質の高さは内外の認めるところである。このことは1枚の四角い紙に表現されるポスターの簡便さだけではなく、複数で携わる無名性のデザインの中で個人の作家性を強く打ち出せる点が魅力の一因かもしれない。

さて、ここに過去の自作環境ポスターをまとめてみた。ところで、これらを街頭で見ることは先ずない。なぜなら「環境ポスター展」として美術館やデパートなどで美術作品展のように開催されるからである。その会場に足を運ぶ関心のあつた特定の人にしか目にふれないポスター。不特定多数の人たちに広く訴えるはずのポスターが、ミニコミ化している。インターネットでの配信も行われているが、誰もが手軽にアクセスできず充分とは言えない。この状況は制作以前に考えなければならぬ私たちデザイナーに突き付けられた命題であり、私の心の中で長らく燦々続けている。

小川 忠彦

「環境保護ポスター」

第17回ユーモアと風刺国際ビエンナーレ・ガブロボ展  
(ブルガリア・ガブロボ)



アフリカの自然を護ろう

1030mm×728mm シルクスクリーン

アフリカ自然保護ポスター・デザインコンテスト特別賞

第1回世界ポスタートリエンナーレトヤマ1985

第11回ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ展

第12回ブルーノ・グラフィックデザインビエンナーレ展  
1984年



JAPAN'88

1030mm×728mm オフセット

第14回ブルーノ・グラフィックデザインビエンナーレ展

EKO PLAGAT '90 (スロヴァキア)

1988年

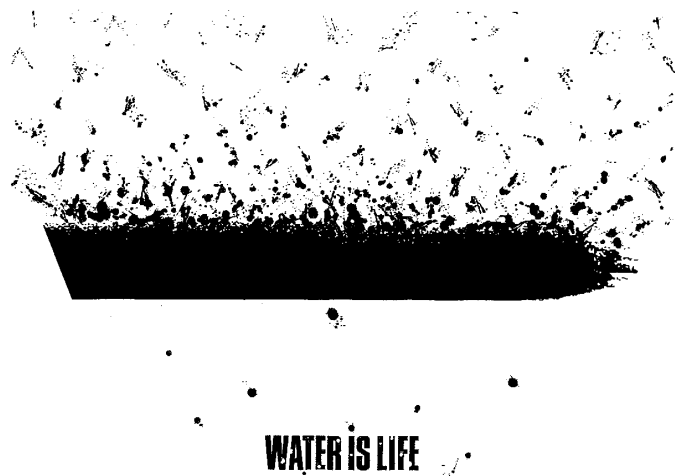


海が泣いている！

1030mm×728mm シルクスクリーン

EKO PLAGAT '90 (スロヴァキア)

1989年

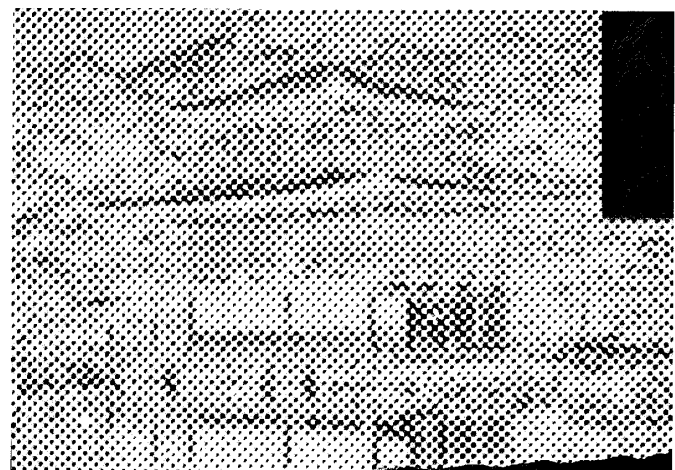


水は生命

728mm×1030mm シルクスクリーン

JAGDA WEST '92 (日本・大阪)

1991年

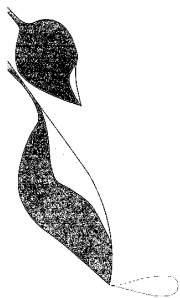


世界遺産：京都

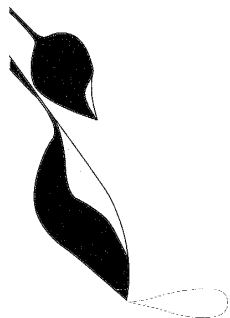
728mm×1030mm シルクスクリーン

現代日本のポスター2004展 (中国・陝西省美術展覧館)

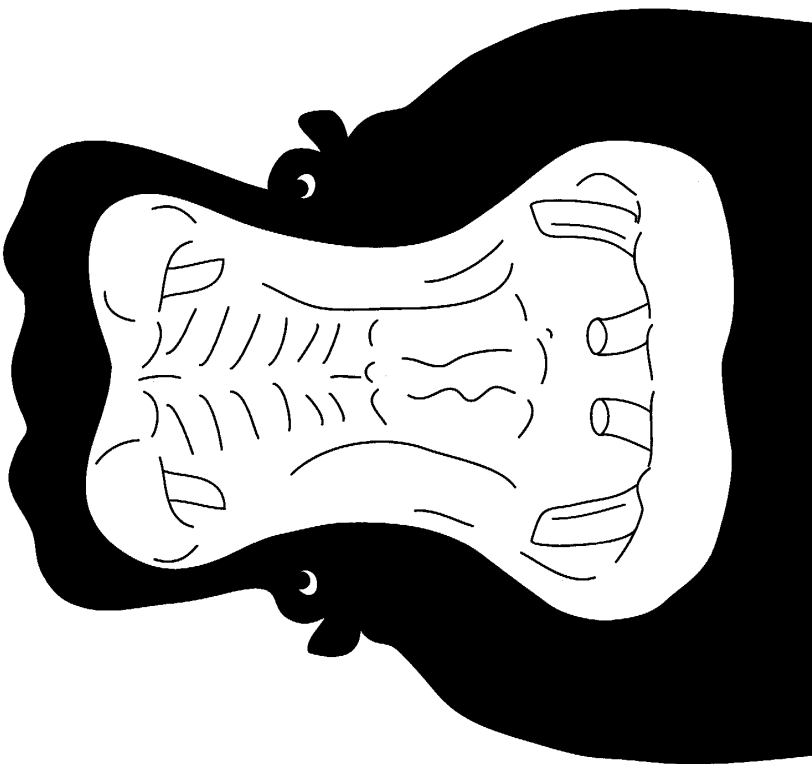
1997年



**WATER FOR LIFE**  
命のための水



**WATER FOR LIFE**  
命のための水



小川忠彦

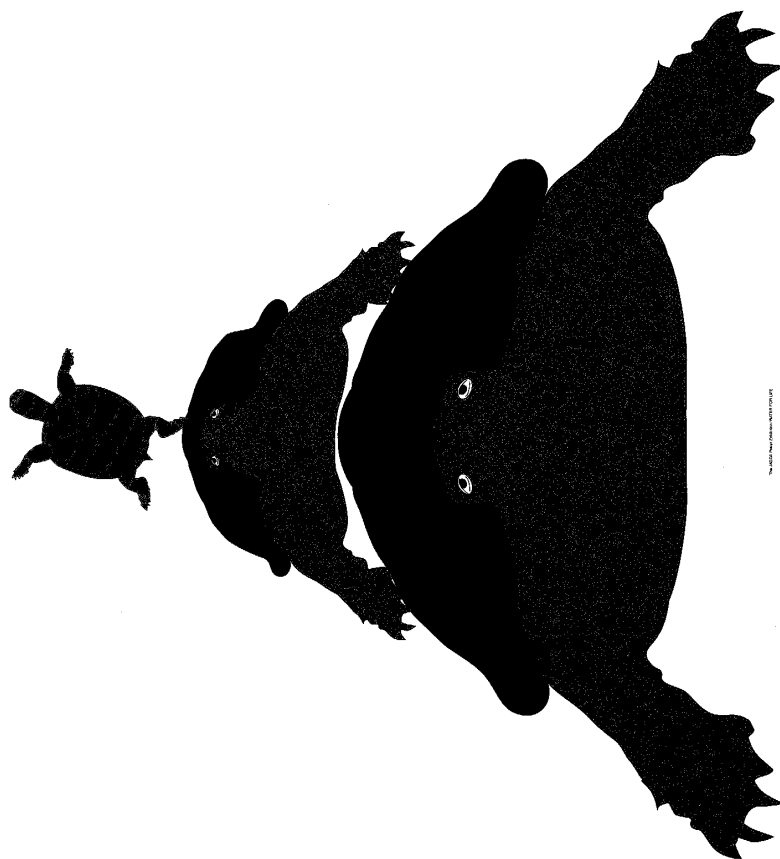
WATER FOR LIFE (A)

2005年

1030mm×728mm

インクジェットプリント

第17回ユニーモアと風刺国際ビエンナーレ・ガブロボ展(ブルガリア)入選作品



小川忠彦

WATER FOR LIFE (B)

2005年

1030mm×728mm

インクジェットプリント

第17回ユニーモアと風刺国際ビエンナーレ・ガブロボ展(ブルガリア)入選作品